

### パッシブファンドにとってのインデックスの重要性

代田 秀雄 CMA・CIIA  
 栗田 昌孝 CMA  
 入江 圭太郎

#### 目 次

- 1. 個人の投信選定の歴史的転換
- 2. TOPIX改革の検証
- 3. 望ましい運用インデックスの条件
- 4. 資産運用立国を目指して

2022年11月公表の「資産所得倍増プラン」では、現行28兆円から5年後に56兆円へとNISAの倍増を目指している。それに伴い金融商品の整備も進むが、長期資産形成の主軸はやはりパッシブファンドではないと思われる。パッシブファンドにとって、連動するインデックスの選択は重要であり、日本株を代表するインデックスであるTOPIXについては今般改革が実施された。今回のTOPIX改革を検証し、望ましい運用インデックスに関するいくつかの示唆を行うと同時に今回の改革が政府の掲げる資産運用立国とリンクすべく金融教育についても提言した。

#### 1. 個人の投信選定の歴史的転換

##### (1) NISAによる投資家層の急拡大

国内個人の投資資金の動向は、公募株式投信(除

くETF) でみるのが適切であろう。ETFを除くのは、国内上場のETFの残高のおよそ85%が日銀の資金であり、個人の資金は2%程度と推定(注1)されるからである。図表1は、公募株式投信(除



代田 秀雄 (しろた ひでお)

三菱UFJアセットマネジメント 常務取締役商品マーケティング部門長。1985年三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社。1996年以降年金資金や投資信託の運用業務に従事。2019年から現職。著書に『 $\alpha$ の追及—資産運用の新戦略—』(共著、金融財政事情研究会、2003年)、『SRIと新しい企業・金融』(共著、東洋経済新報社、2007年)、『企業年金ガバナンス—年金格付けへの挑戦—』(共著、中央経済社、2007年)がある。国際公認投資アナリスト(CIIA)。上智大学非常勤講師、不動産証券化協会認定マスター試験委員などを務める。



栗田 昌孝 (くりた まさたか)

ブルームバーグL.P. マーケット・アンド・プロダクトスペシャリスト。1994年山一証券入社。CLSA証券、BNPパリバ証券、ドイツ証券、クレディ・スイス証券などでクオンツ・アナリストを歴任。またBGI(現ブラックロック)に在籍してクオンツ・アクティブ運用でのシグナル・リサーチに従事。訳書に『行動ファイナンスの実践—投資家心理が動かす金融市場を読む—』(ジェームス・モンティア著、ダイヤモンド社、2005年)がある。

入江 圭太郎 (いりえ けいたろう)

三菱UFJアセットマネジメント 商品開発部 チーフマネジャー。2005年UFJパートナーズ投信(現三菱UFJアセットマネジメント)入社。トレーディング業務、クオンツ運用業務、リスク管理業務、DX推進業務などに従事。